
MMAKE (VERT) 行列名 系列のリスト ;
 あるいは
 MMAKE ベクトル スカラーのリスト ;
 あるいは
 MMAKE (VERT) 行列名 行列のリスト ;

機能 :

MMAKEは, 系列変数の集合や行列組み合わせで新しい行列を作ったり, スカラーの集合から新しいベクトルを作ったりします. 系列の場合には, 新しい行列の行数は観測値の数に等しく, 列数は系列の数に等しくなります. 行列の場合には, 新しい行列はその行が行列の行の共通の数に等しく, 列の数は列の総数に等しくなります. ベクトルの場合は, 行数がスカラー数になります.

MMAKEはUNMAKEの逆で, 行列を系列変数の集合に分解したり, ベクトルをスカラーの集合に分解します. ある行列を形式の変化, 次元の変更, 転置操作により他の行列をつくるには MFORM のコマンドを使って下さい.

使用法:

MMAKE の最初の引数は, 新しい行列の名前です. 次にこの新しい行列の列を構成する系列変数のリストが続きます. 系列の数は, 引数リストの上限 (通常は2000 以上) と新しい行列が保存される記憶域の大きさによって制約されます.

現在の標本期間内で定められる系列変数の観測値だけが利用されます. ですから SMPLを変更することにより行列に入れるデータを簡単に選ぶことができます.

MMAKE によって作られる行列はいつも一般型で, (系列を用いたときは) その次元は NROW=@NOB(観測値の数) 掛ける NCOL=インプット系列の数となります. この形を変更するためには, MFORMを用いて下さい.

MMAKE の2 番め以降の引数がスカラー (CONST, PARAM, あるいは数値) ならば, ベクトルが行列に代わって作成されます. この操作は, 先に得られた@COEFベクトルなどをUNMAKEして作ったパラメータの推定値やスカラーから@START, @COEF 等のベクトルを作るのに便利です.

オプション

VERT/NOVERTはインプット系列あるいは行列を水平にではなく, 垂直に結合する.

例:

もし現在の標本期間が SMPL 1 4 で, 2つのデータ系列 $X1 = (1,2,3,4)$ と $X2 = (9\ 8\ 7\ 6)$ があるならば, 次のコマンド

```
MMAKE = X X1 X2 ;
```

は, 行列

$$X = \begin{matrix} & 1 & 9 \\ & 2 & 8 \\ & 3 & 7 \\ & 4 & 6 \end{matrix}$$

になります。他方, $\text{MMAKE}(\text{VERT}) = X \ X1 \ X2$; は, 8×1 ベクトル XV を作成します。

$$XV = \begin{matrix} 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \\ 9 \\ 8 \\ 7 \\ 6 \end{matrix}$$

次の例では, LOGIT モデルに係数を追加し, 他の係数の初期値は既に計算された推定結果を用います。

```
LOGIT(NCHOICE=2) WORK C SCHOOL EXPER RACE ;
UNMAKE @COEF C1-C4 ;
MMAKE @START C1-C4 0 ;
LOGIT WORK C SCHOOL EXPER RACE MSTAT ;
```

この例は回帰出力の行列をディスクに書きます。

```
LOGIT WORK C SCHOOL EXPER RACE MSTAT ;
MMAKE REGTAB @COEF @SES @T;
WRITE(FILE="REGTAB.ASC",FORMAT="(3F10.5)") REGTAB;
```

最後の例は分割行列を作成します。

```
A =  D  E  F
      G  H  I
```

ここで D, E, F は同じ行の数を持つ行列で, D と G は同じ列の数を持ちます, 等々。

```
MMAKE DEF D E F ;
MMAKE GHI G H I ;
MMAKE(VERT) A DEF GHI ;
```

アウトプット:

MMAKE にはアウトプットはありません。1つの行列あるいはベクトルがデータ領域に保存されます。